

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成22年度事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

平成23年9月
山口情報芸術センター
館長 足立 明男

目 次

平成22年度山口情報芸術センター収支決算	2
平成22年度山口情報芸術センター事業概要	3
〔1〕アート	4
〔2〕パフォーマンスアート	12
〔3〕教育普及	18
〔4〕ラボ	22
〔5〕シネマ	23
〔6〕主な貸館事業	26
〔7〕施設利用状況	27
〔8〕その他特記事項	27
主な関連新聞記事	28
(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果	37

平成22年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1 施設維持管理費

(支出の部)

科 目	決 算 額(円)
施設費	173,198,645

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気・ガス・上下水道の光熱水料費(48,634千円)
②施設全体に係る清掃・空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費(81,230千円)です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2 自主事業費

(収入の部)

科 目	決 算 額(円)	備 考	構成比
チケット収入等	5,494,411	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	2.4
助成金収入	19,459,597	文化庁、(財)地域創造等による助成金	8.5
雑収入等	1,245,344	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料等、寄付金収入	0.5
補助金収入	202,619,596	山口市からの自主事業実施に係る補助金	88.6
合計	228,818,948		100

*チケット収入は収入全体の2.4%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

(支出の部)

科 目	決 算 額(円)	備 考	構成比
人件費	113,100,298	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	49.4
アート	43,452,928	アート企画展等に係る経費	19.0
パフォーミングアーツ	30,882,246	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	13.5
教育普及	5,586,637	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	2.4
ラボ	1,260,168	研究開発事業、研修生受け入れ等に係る経費	0.6
シネマ	14,119,790	シネマ上映等に係る経費	6.2
共通事業費等	20,416,881	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等の共通経費	8.9
合計	228,818,948		100

平成22年度 山口情報芸術センター事業概要

1 事業の方向性

～地方発信の時代へー <場>と<オリジナル>を重視する～

山口情報芸術センター(YCAM)は、メディアテクノロジーと身体をめぐる新しい芸術表現活動を追求する複合的文化施設です。身体表現の場であるシアター[スタジオA]、アート作品を製作・展示できるアートホール[スタジオB]、コンピュータによる作品制作が可能なラボ[InterLab/専任エンジニアが所属]が融合された、世界的にも稀な機能を有した施設です。YCAMでは、アートの現場に参加する文化体験を通じて、理解発見力、分析力、表現力を伸ばすための、真のコミュニケーションの<場>を創りだすことに挑戦しています。そのために、従来の「展示・保存型」の文化施設ではなく、「この場で考え、コミュニケーションし、共同で作り出そう」という「制作・発信・コラボレーション型」の創造的文化環境づくりを目指しています。その中で新しい発見や共同作業の喜びを体験してもらうことを期待しています。

YCAMの事業は、<アート><シアター><教育・普及>を3つの柱としています。各分野とも施設の複合的特性を生かした、他の施設では生み出せないオリジナルのプロダクション(制作)を重要視し、地方から世界へ「オリジナルソフト」の発信を積極的に行っています。その成果は、すでに数々の国際フェスティバルでの受賞をはじめ、国内外からの数多くの展示・公演の招聘依頼などによって評価と信頼を得ています。情報共有だけでなく、文化施設どうしのオリジナルソフトの交換から生まれる国際的信頼の蓄積は、YCAM＝山口市に新たなブランド力を生んでいます。また、日本の新しい人材・発想を世界に紹介することにも寄与しています。YCAMの事業を通じて、世界的な創造的才能(アーティストや情報技術関係者)が訪れる<場>を山口市に作りだすことで、有形・無形の文化的蓄積が可能になるばかりでなく、新しい形の地域還元も目に見える形になっています。例えば、アート作品で開発利用されたコンピュータプログラムやアプリケーションソフトが、ラボの活動を共有することで、別の分野の教育材ソフトの開発に応用され、オリジナルの情報教育教材を生むケースなどです。これらは、データソフトの提案だけでなく、ワークショップの形で施行するパッケージツールとしての現場普及の側面もフォローし、地元地域へのさまざまな形での情報技術・リテラシー教育を還元していく「THINK GLOBAL, ACT LOCAL」を現実的に成功させています。このような形で生み出されたYCAMオリジナルソフトは、地元だけでなく、国内の他の地域の教育関係施設からも高い関心を寄せられています。

2 事業の概況

山口情報芸術センターは、開館7年目を迎え、平成22年2月に入館者数500万人を越えました。

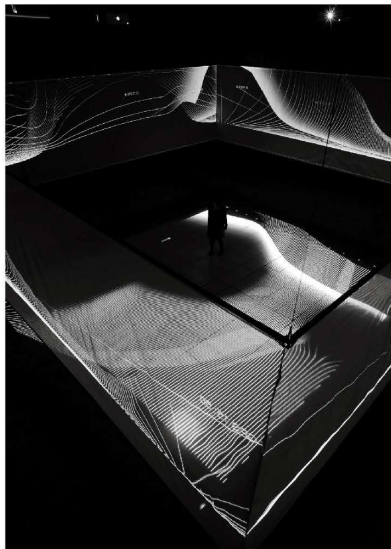
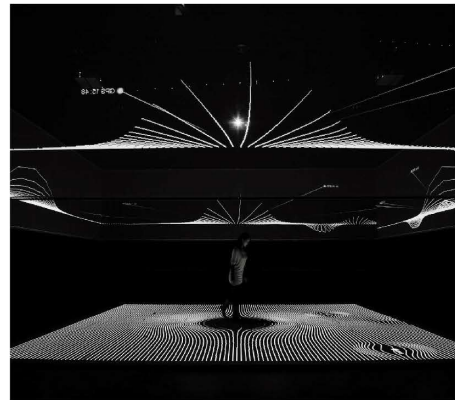
主な活動としては、「霧の彫刻家」中谷芙二子と映像作家高谷史郎によるコラボレーション作品「CLOUD FOREST」や、文化庁メディア芸術祭巡回企画展の一環として文化庁と共同で開催した「particles」等の企画展示を実施するとともに、国内外から注目を集める振付家、梅田宏明の新作公演の制作に取り組むなど精力的な事業展開を行いました。

3 各事業総括

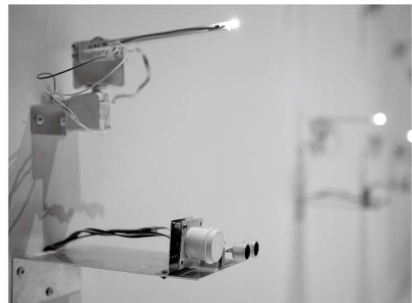
事 業 区 分	事業数	入場者数(名)
[1]アート	9	62,334
[2]パフォーマンス	9	1,360
[3]教育普及	15	1,594
[4]ラボ	2	-
[5]シネマ	12	4,833
[6]貸館(件数)	25	4,144
合 計	72	74,265

(備考)
①事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧ください。
②入場者数について
・ホワイエ、ギャラリー等の展示については実数把握ができないため、入場者数に加えていません。

ART



アート



アート

1 渋谷慶一郎+evala 新作サウンドインスタレーション「for maria installation version」

開催日時: 10月1日(木)～平成22年6月6日(日)
会場: 中庭(入場無料)

実験的かつハイクオリティなリリースが世界的に注目を集めるレーベルATAKを牽引する存在である渋谷慶一郎とevalaにより、本会場のために制作されたインスタレーション。本作は、渋谷によって作曲・演奏されたピアノソロによるCDアルバム「ATAK015 for maria」のサウンド・データの全て(全14トラック)を素材とし、渋谷とevalaによるコンピュータプログラムによって、＜加工／解体／再構成＞する音響作品。
会場となるホワイエを挟んだ2つの中庭A・Bは、天井までの高い壁(水平線)による特殊な音響特性を持ち、地下に設置された5.1(または5.1+2)チャンネルのスピーカーから音源が再生された。中庭は、それぞれ異なる建築構造を持つため、それぞれの空間に、異なったプログラミングが施されたサウンドがインストールされた。音響は立体的な移動を伴い、複数の楽曲間に新たな関係やレイヤーを構築し直すことで、原曲とは異なった全く新しい音楽・音響が生み出された。

2 三上晴子+市川創太「gravicellsー重力と抵抗」改訂新バージョン

開催日時: 平成22年1月24日(日)～6月6日(日)※5月10日～21日は閉鎖
会場: スタジオB
入場者数: 8,476名(入場無料)

「知覚のインターフェース」をテーマに、独自に開発した特殊な装置によって、人の重力とそれに対する抵抗を、映像と音によって表現する体験型のインスタレーション作品。
展示空間には、重力とそれに対する抵抗による仮想の力学場が設けられており、特殊な装置と水圧センサーによって開発された独自のセンシング機構によって、体験者の位置、重さ、傾き、速度や重力加速度の作用をリアルタイムに計算し、3次元の空間の歪みとして、映像と音に出力されるしくみとなっている。観客は、空間の中を自由に歩き回ること、ダイナミックに変容する映像と音から、身体への重力の負荷と、それに対抗する反力を感じることができた。
また、今回の新バージョンでは、映像をプロジェクションする床面と3方向の壁面を、新たに四方を連結した4面スクリーンに拡張。床面を加えた5面のリアルタイム画像の動きが連動し、観客の動きや重力の作用による空間の変化を、より立体的な3次元空間として体験することが可能となった。

3 三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes | 欲望のコード」

開催日時: 3月20日(土)～6月6日(日)
会場: スタジオA
入場者数: 4,918名(入場無料)

現在の情報技術と多様な次元のインタラクションが生み出す時間／空間の変容を体感できる新作2作品と関連展示1作品からなる総合的企画展。9.11以降、社会的な影響を与える公共圏における監視技術の問題をふまえ、「監視社会と身体」を共有テーマにアーティストの三上晴子、複雑系科学の研究者、池上高志両氏が各新作を発表した。三上は、YCAMとの共同制作により、監視技術とネットワーク社会の中に生み出される、新たな身体性と欲望の所在について探求し、最新技術やロボティクスを駆使した斬新なアプローチとなった。池上は、脳科学による「主観的時間の自己組織化」の視点から発想し、心の時間発展の理論に言及した観客参加型作品を公開した。さらに、2005年にYCAM初公開後、世界8カ国12カ所を巡回した三上晴子+市川創太による「gravicells-重力と抵抗」改訂新版を同時公開した。

【関連展示】池上高志「MTM [Mind Time Machine]」

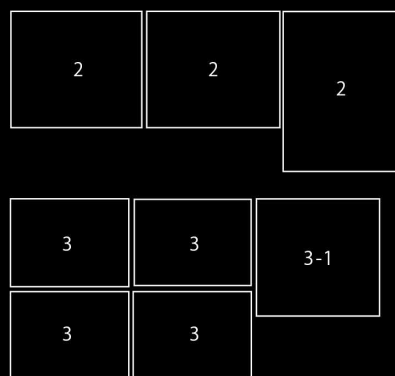
会場: ホワイエ(入場無料)

本展では、展覧会の構成においても実験的なアプローチを試み、三上晴子による新作と同じテーマを共有しながら、アプローチの全く異なる複雑系科学の研究者である池上高志による新作「MTM [Mind Time Machine]」を同時公開した。
池上は、「主観的時間の自己組織化」という視点から、アメリカの脳生理学者ベンジャミン・リベットの研究にインスパイアされ、脳の中の主観的時間の多層性をいかにあらすかを探究し、作品として発表した。それは、人の意識を担っている脳が作り出す、意識とは別の時間的「今」を再構成するという科学的検証から出発している。コンピュータの作り出すプロセスによって、ニューラルネットワークの持つ自然環境そのものをつくりだすことを試みるため、認識の光景を組織化する「脳の主観的時間のダイナミクスによる映像表現」を、意識／無意識／記憶の3つのプロセスのネットワークによるインタラクティブ作品として提示した。

【関連】オープニングトーク

開催日時: 3月21日(日) 14:00～
会場: ホワイエ
入場者数: 107名(入場無料)

本展参加アーティストの三上晴子、池上高志両氏を中心に、各作品の制作メンバーも交え、作品を前にして解説およびディスカッションを開催した。作品の構想から制作のプロセスまで、作品の背景についても解説を行った。



- 2 三上晴子+市川創太「gravicellsー重力と抵抗」改訂新バージョン
- 3 三上晴子新作インスタレーション展「Desire of Codes | 欲望のコード」
- 3-1 池上高志「MTM [Mind Time Machine]」



4 中谷芙二子+高谷史郎 新作インスタレーション「CLOUD FOREST」

開催日時: 8月7日(土)～10月17日(日)

会場: 中庭、ホワイエ、中央公園

入場者数: [ホワイエ]17,646名 [中央公園]21,088名 (入場無料)

「アートとしての環境圏」をテーマに、芸術表現と情報技術の融合によって新たに見出される環境創造を提案する展覧会。本展では、これまで様々な場で発表され、国内外から注目を集めてきたアーティスト、中谷芙二子による「霧の彫刻」と、高谷史郎による光とサウンドの表現がコラボレーションし、YCAM館内外の公共空間3ヶ所を会場に、大スケールの新作を同時発表した。本展では、その発想の一端となった1970年の大阪万博におけるアートと科学の先見的なプロジェクトの紹介・再評価や、ディヴィッド・チュードアのサウンドアートのもたらす環境反射性を参照し、YCAMの建築空間内外において、諸要素が照応・浸透しながら、環境創造の未来とこれからの「情報圏」、そしてアートによる創造的な探索のあり方について、体験を通して思考する機会を提供した。

<作品内容>

滞在制作によるYCAMオリジナル作品(委嘱作品)である本作「CLOUD FOREST」は、人工霧、太陽光、サウンドが組み合わせ、独自の装置と天候の変化によって様々な情景や空間が生み出されるインスタレーションである。観客は、中庭や公園に広がる霧の中を歩きながら、情報技術を駆使した作品と対話し、自らの知覚の変容を体験できた。

1) 中庭

吹き抜け構造により日光や雨、風が侵入する全面ガラス張りの中庭2ヵ所に、人工霧、光線(太陽光の反射)、サウンドによるインスタレーションを展開。多方向からタイミングを変えて放出される人工霧は、周囲の内外の環境に左右されながら対流を作り出し、鏡を用いた特殊装置で太陽光を反射させ、霧の中へと投射した。局所的に音を聞くことができる特殊な音響システムも各所に設置され、観客は、その中を歩き回ることによって、霧の形態、太陽の位置、そして気象状態との関係によって異なる光学的な変化やサウンドスケープを、時間、位置、角度の違いで、異なる情景とともに体験することができた。

2) ホワイエ

左右の中庭から自然光が降り注ぐホワイエでは、高谷史郎による、音と光の反射に着目した巨大なインスタレーションを展開。各々に4台の超指向性スピーカーを備える特殊な音響装置9基が中央床面に設置され、自然環境で録音されたフィールド音が、同期/非同期しながら、多様なスピードで回転し、会場の壁や階段に複雑に反射しながら、複雑かつ密度のある音響環境を生み出した。中庭から反射する自然光や周囲の人工光に囲まれ、これまで経験したことのない空間体験が可能となった。

3) 中央公園

中谷芙二子による「霧の彫刻」を、野外の広大なスペースを持つ中央公園に展開。ここは、風向、風力が激しく変化するため、霧の群動的な動きが瞬時に移り変わる。そのため、観客は、中庭とは異なる圧倒的な霧の量感を感じながら、環境と融合し、流動するオブジェとしての「霧の彫刻」を体験することができた。

中央公園でのプロジェクトは、室町時代から、河川や水とともに、大きな文化的、経済的繁栄を育んできた町、山口の環境と歴史性を踏まえ、「山口開府650年・湯田温泉復活300年記念事業」としても実施された。

【関連】デモンストレーティブ・パフォーマンス

開催日時: 8月7日(土) 19:00～

会場: ホワイエ

出演: 中谷芙二子、高谷史郎、softpad [南 琢也、上芝智裕、外山 央]、古館健

入場者数: 149名(入場無料)

展覧会参加アーティストの中谷芙二子、高谷史郎両氏に加え、展示作品のサウンドデザインを担当した、京都を中心に活動するアート/デザインユニットsoftpad、プログラミングを担当した古館健が出演。当館の中庭とホワイエに設置したインスタレーションそのものをパフォーマンス空間として使用し、霧、光、音による実験的スペシャルライブパフォーマンスを、無料で一般公開した。

【関連】アーティストトーク

開催日時: 8月8日(日)

会場: スタジオB

出演: アーティスト: 中谷芙二子、高谷史郎 (本展アーティスト)

スペシャルゲスト: 磯崎 新 (建築家)

モデレーター: 浅田 彰 (批評家、京都造形芸術大学大学院長)

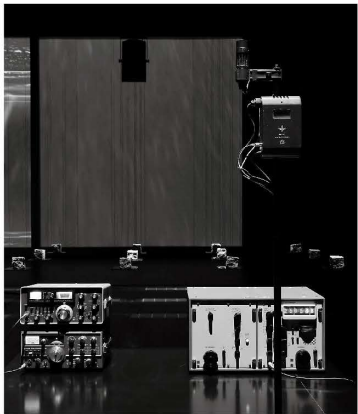
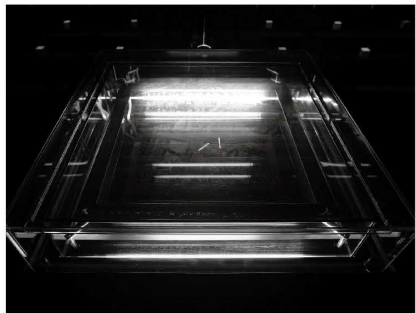
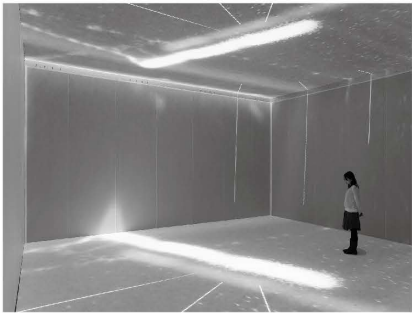
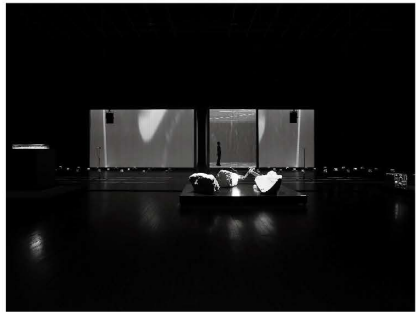
入場者数: 117名(入場無料)

本展アーティスト、中谷芙二子氏、高谷史郎氏をゲストに迎え、ポストモダン以降の現代芸術批評で活躍する浅田彰氏をモデレータに、本作品および制作プロセスについてのトークを実施した。また、本展の発想源となった1970年の大阪万博ペプシ館における実験グループE.A.T.の取り組みも参照し、そこで最初に発表された中谷氏の「霧の彫刻」、ディヴィッド・チュードアのサウンドスケープなど、先駆的な業績についても振り返った。さらに、ゲストとして、YCAMの設計者であり、大阪万博でも多大な業績を残している、建築家の磯崎新氏が討議に加わり、大阪万博から40年を経過した現在の視点から、「アートと環境」の今後の展望についてディスカッションを行った。

ART



アート



5 山口開府650年・湯田温泉復活300年記念事業 雪舟「四季山水図」映像展示「映像の空間“大殿”」

開催日時: 9月25日(土)、26日(日)、30日(木)、10月1日(金)、2日(土)
会 場: 一の坂川多目的広場

山口開府とも縁のある雪舟の山水画「四季山水図(山水長巻)」を、山口市の大内時世の遺構が多く残る大殿地区にて上映展示する事業。アーティスト向井知子によって制作された高精細映像を、幅6メートルの巨大スクリーンに投影し、実際の巻物の鑑賞方法にならずえ、横方向へゆっくりとスクロールしながら、詳細な部分が良くみえるような手法で提示された。市内行事であるアートふるリバーナイト〜キャンドル2010へ、アートふる山口といったイベントと同時に開催することによって、それぞれの来場者に対しても、文化都市山口、または過去と未来とを繋ぐメディア表現をアピールするものとなった。

6 カールステン・ニコライ+マルコ・ペリハン新作インスタレーション展「polar[™] ポーラーエム」

開催日時: 11月13日(土)〜平成23年2月6日(日)
会 場: スタジオA
入場者数: 3,847名(入場無料)

本展は、世界的に活動を続けるカールステン・ニコライ(ドイツ)とマルコ・ペリハン(スロヴェニア)の2人のアーティストがコラボレーションし、10年に1度、それぞれの時代の最新の情報技術から、空間／時間への感覚の変化を捉える環境観測の方法を提案し、インスタレーション作品として展示するものである。本展のスタートとなった、2000年の展覧会「polar[ポーラー]」は、「情報としての地球」「環境への眼差し」を強調する先見的なアイデアで国際的にも高く評価された。2000年の展覧会「polar」から10年を経た今回の「polar[™]」では、現在における最新の情報技術を活用しつつ、自然環境、社会環境、情報環境の関係性を考慮する新たな表現の方法が試された。たえず変動する環境創造のプロセスを、地球の電磁環境、生態系から捉えるために、本展では「放射線(radiation)データ」に着目した。人間社会に留まらないすべての存在を、放射線データとの関係から描き出す独自のプラットフォームを提示し、映像やサウンドによって可視化する作品は、情報が組織する新たな環境への体験をもたらした。

<作品内容>

本作は、左右対称に設置された7m四方の2つのキューブ状の構造体と、3つのオブジェで構成され、地球上の電子的文明の発生源と、それを取り巻く生態系を含む環境を、私たちが感覚するための装置として機能。作品空間では、体験者を含むすべての存在が放射線との関係からセンシングされ、それをもとにインスタレーションが常に変動を続けることとなった。そのプロセスは、微細なグラフィックの映像や特殊なサウンドによって空間全体を変容させ、「放射線データによる関係世界」が描き出された。体験者は、片方の構造体の内部に入ったり、もう片方の構造体を外側からうかがうことにより、作品を体験。メディアテクノロジーとともに、物質的／非物質的な自然現象を導入し、絶えず変動を続ける不可視のデータを知覚可能な表現へと還元する本作は、作品空間の変容から、新たな環境のあり方を体験することができる、これまでにない発想のインスタレーションとなった。

【関連】国際シンポジウム「アートから環境へ」

開催日時: 11月13日(土)
会 場: ホワイエ
出 演: カールステン・ニコライ、マルコ・ペリハン
アンドレアス・ブレックマン(ドルトムントU館長)、池上高志(複雑系研究者／東京大学広域科学専攻教授) ※映像のみ
モデレーター: 四方幸子(ゲストキュレーター)、阿部一直(YCAM)
入場者数: 96名(入場無料)

日独交流150周年を記念した特別イベントとして、本展アーティストのカールステン・ニコライ、マルコ・ペリハン両氏、ドイツのドルトムントU館長のアンドレアス・ブレックマン氏を招聘し、シンポジウムを開催。メディア技術によるアート表現が、不可視のデータを映像やサウンドなどの感覚可能なものとするとき、どのような可能性や未来が開けるのか。アーティストは科学的見地を経ながら、今後、どのような視点で環境を捉え、提言していくのか。ニコラ・テスラをはじめとする歴史的事例から現在までを参照しつつ、討議が行われた。

【関連】sound tectonics#8「raster-noton evening」

開催日時: 11月13日(土) 19:00〜
会 場: スタジオB
入場者数: 243名(入場料3,000円他)

展覧会オープニングを記念した最新鋭メンバーによる特別ライブパフォーマンス。メインゲストとして、物理学／数学からの独自のリサーチを音響的に応用した表現をおこなう先端ユニット「cyelo」[カールステン・ニコライ + 池田亮司]を迎え、完全に新しいコンテンツで約10年ぶりに臨む世界ツアーのプログラムが展開された。また、ドイツの音楽レーベル「raster-noton」からbyetoneとniboの2名が出演、ゲストとして、デューラーや坂本龍一との共演でも知られるクリストファー・ウィリッツが登場し、ラップトップミュージックの国際的な最強メンバーによるオーディオ・ビジュアル・パフォーマンス・ナイトとして圧倒的な映像表現、電子音響を体験できる機会を提供。近隣地域だけでなく、全国的に多くの注目を集め、会場は満員となった。

アート

ART



アート

アート

7 真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」

開催日時: 3月5日(土)～5月5日(木)
会 場: スタジオB
入場者数: 2152名(3月末時点: 入場無料)

アートからデザイン、広告、音楽に至る幅広い領域で、メディア技術を用いた多彩な活動を続けるクリエイター、真鍋大度と石橋素両氏による新作を発表する展覧会。本展は、優れたメディア芸術の鑑賞機会を提供することを目的に、「文化庁メディア芸術祭巡回企画展」の一環として、YCAMと文化庁が共同で開催するものである。文化庁メディア芸術祭の受賞作家でもある真鍋大度+石橋素の新作を、YCAMがプロデュースして発表するとともに、第13回(2009)と第14回(2010)の文化庁メディア芸術祭の受賞作品の映像も上映。さらに、同時開催として、ユニークな発想と優れた技術で注目を集める彼らの作品「fade out」と真鍋氏の代表作ともいえる「electric stimulus to face」を同時期開催した。リサーチや研究、実験を重ねながら、メディアアートの可能性を探求し、躍進を続ける彼らの活動を総合的に紹介する初の本格的な個展を通じ、テクノロジーがもたらす新たな表現、メディア芸術の魅力を体験する機会を提供した。

<作品内容>

新作「particles」は、点滅する光源が空中を浮遊し、幻影的な残像を作り出すイルミネーション・インスタレーション。有機的な螺旋空間構造をもつレールの上を、LED(発光ダイオード/Light Emitting Diode)を内蔵した多数のボールが次々に通過し、LEDが様々なタイミングで発光することにより、光の粒子が浮遊し、空中に多様な形態を描き出した。アーティストは、レールの構造特性と通信制御技術を融合し、光の明滅を3次元空間としてデザインすることで、観客の位置によってもイルミネーションの見え方が変化する作品となった。LEDデバイスなどのハードシステムからプログラミングに至るまで、誰もが楽しめるアイデアと緻密な情報技術が融合した最新作として、大きな注目を集めた。

8 館内展示作品

8-1 scopic measure#11 真鍋大度「electric stimulus to face」

開催日時: 3月5日(土)～5月5日(木)
会 場: ホワイエ
入場者数: 3,495名(12も含む・入場無料)

データと身体の相互関係に着目し、洗練されたプログラミング技術と徹底したリサーチによって開発された真鍋大度の代表作ともいえる映像作品「electric stimulus to face」を紹介。人間の顔の表情が、意識や感情から生み出されるのではなく、サウンドから変換された電気信号によって自動的にコントロールされ、音楽のヴィジュアルイザーともいえる「表情」をつくり出すオリジナルのシステム「Face Visualizer」を収録した映像を、本展では、ホワイエに設置した巨大スクリーンと音響装置によって展開した。(メイキング映像や世界各所で開催されたワークショップの映像も同時展示)

8-2 scopic measure#12 真鍋大度+石橋素 「fade out – phosphorescence [フェード・アウト - フォスフォレッセンス]」 「fade out – photochromic [フェード・アウト - フォトクロミック]」

開催日時: 3月5日(土)～5月5日(木)
会 場: ホワイエ

光を蓄えて発光する蓄光シートによるスクリーンに、紫外線レーザー光を照射することで、ビデオ映像とは全く異なる光学反応によるポートレートを描く装置「fade out」。赤外線カメラで撮影された来場者の画像データは、輝度分布が自動解析され、暗い部分から順に壁面の蓄光シートに照射される。それにより、シート上に残る光のグラデーションが、突如ポートレートとして認識され、眼前に浮かび上がってくる様子を体験できた。本展では、蓄光シートを用いた「fade out」オリジナルバージョンに加え、スクリーンの素材には、紫外光を当てると色がつき、光照射を止めると瞬時に元の無色透明に戻る、新しく開発された有機化合物「フォトクロミック化合物」を使用した最新バージョンを本展のために制作し、初公開(技術協力: 青山学院大学理工学部化学・生命科学科機能物質化学阿部二郎研究室、関東化学株式会社、伊藤光学工業株式会社)。「fade out」のオリジナルバージョンと並置して展示された。

7

8-1

8-2

8-2

7 真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」
8-1 scopic measure#11 真鍋大度「electric stimulus to face」
8-2 scopic measure#12 真鍋大度+石橋素「fade out – phosphorescence [フェード・アウト - フォスフォレッセンス]」

PERFORMING ARTS

[2] パフォーミングアーツ



1	1	1
2	2	
2	3	
3		
4-1	4-2	

- 1 「追悼ピナ・バウシュ 映像で見る世界のダンス スペシャルトーク+ドキュメンタリー上映会」
- 2 YCAM Performance Lounge#5 快快(faifai)「Y時のはなし」+contact Gonzo/パフォーマンス
- 3 ホフェッシュ・シェクター「Political Mother」
- 4-1 ダンス+演劇公演「赤い鼻」
- 4-2 演劇公演「ダルレの話」

1 「追悼ピナ・バウシュ 映像で見る世界のダンス スペシャルトーク+ドキュメンタリー上映会」

開催日時:4月17日(土) 13:30～
会 場:スタジオC
入場者数:95名(入場料1,000円他)

2009年6月に急逝した世界的振付家、ピナ・バウシュの活動を、ドキュメンタリー映像3作品とトークイベントで紹介する特別企画。死後もなお、ダンス・演劇・美術といったジャンルを超えて世界各国で影響を与え続ける偉大な振付家、ピナ・バウシュの生前の活動を紹介する映像や、日本で殆ど上映される機会のなかった映像作品の上映と、ピナ・バウシュの活動を16年間支え続けた元マネージャーのマティアス・シュミーゲルトによるトークを開催。近隣だけでなく、全国から熱心なファンが多数来場し、その関心の高さが伺えた。

2 YCAM Performance Lounge#5 快快(faifai)「Y時のはなし」+contact Gonzo/パフォーマンス

開催日時:5月15日(土) 19:00～ 16日(日) 14:00～
会 場:スタジオB(快快)、ホワイエ(contact Gonzo)
入場者数:15日89名、16日97名(入場料2,000円他)

演劇・ダンスというジャンルの垣根を越え、新しい表現を目指すアーティストの作品を間近に感じながら気軽に楽しめる、YCAM/パフォーミングアーツの入り口企画シリーズ。5回目となる今回は、美術館やギャラリー、公園等で即興的なパフォーマンスを突如として繰り広げる「contact Gonzo」がホワイエに登場。特別ゲストとしてアーティストの梅田哲也が参加し、ライブパフォーマンスを行った。

そして、スタジオBでは、若者の今を切り取る感覚を、ポップな演劇・ダンス・映像・ゲーティングなど独自のメディアを通して発信するカンパニー「快快(faifai)」による演劇作品「Y時のはなし」を上演。快快公演終了後にはスペシャルイベント「アフターアワーカフェ」として、音楽担当の運沼軌太によるライブと、作品で使用した舞台美術や小道具に実際に触れられるイベントを開催。

演劇やダンスファンだけでなく、特に若年層を始め、さまざまな関心をもった観客が集まった。

パフォーミングアーツに親しむための複数の入り口を提案できた企画。

3 ホフェッシュ・シェクター「Political Mother」

開催日時:6月20日(日) 14:00～
会 場:スタジオA
入場者数:217名(入場料2,800円他)

世界的に突出した新進アーティストを招聘し、舞台表現の次世代を見通す公演シリーズ。今年紹介したのは、イギリスで活躍する新進気鋭の振付家、ホフェッシュ・シェクター。ホフェッシュはイスラエルに生まれ、パットシェバ舞踊団での活動の後、イギリスへ渡り、近年国際的に高く評価され始めた振付家。振付家として、そして作曲家としても活躍するアーティストによる最新作を日本初紹介した。

公演終了後には、ホフェッシュと舞踊評論家によるポストトークを開催。

また、公演前日には、「リズム・ワークショップ」を開催。子どもや親子など幅広い年齢層の方が参加し、カンパニーのパーカッショニストがリードしながら一緒に演奏をすることで、ホフェッシュの作品に音楽からも親しんでもらうことが出来た。

4 おやこで楽しむ演劇&ダンス2010

4-1 ダンス+演劇公演「赤い鼻」

開催日時:7月31日(土) 14:00～
会 場:スタジオA
入場者数:79名(入場料2,000円他)

次代を担う子どもたちとその親世代に対して、優れた舞台芸術作品を提供する企画。親子で一緒に楽しめるイタリアのダンス+演劇作品を紹介。セリフはなく、音楽に合わせて繰り上げられるダンスとテンポのよい展開で、舞台の楽しさをダイレクトに伝える本作は、小さな子どものみならず大人までも魅了した。公演終了後には、出演者とともに舞台セットや小道具で遊べるイベントを開催。2歳から観賞できる作品は貴重であり、地域の小さな子どもを持つ家族連れを中心に多数の来場があった。

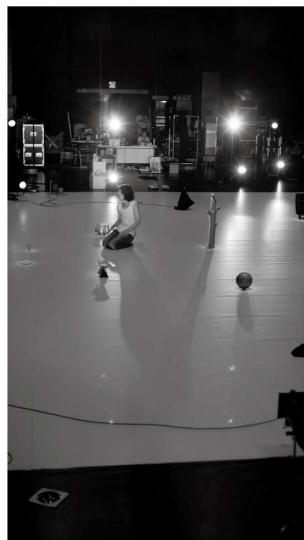
4-2 演劇公演「ダルレの話」

開催日時:8月1日(日) 14:00～
会 場:スタジオA
入場者数:75名(入場料2,000円他)

次代を担う子どもたちと、その親世代に対して、優れた舞台芸術作品を提供する企画。1950年代に起こった朝鮮戦争を題材にした本作は、様々な苦勞を乗り越えようとするひたむきな家族の姿を描いた演劇。作品中には韓国の伝統音楽や色鮮やかな舞台セット、そして人形と人間と一緒に演じるというユニークな演出も特徴的であった。セリフではなく音楽やシーン、動きでストーリーが展開していく演出方法により、作品の内容を、年齢を問わず理解することを可能にした。

PERFORMING ARTS

[2] パフォーミングアーツ



5 中村恩恵×首藤康之ダンス公演 「時の庭」[The Well-Tempered]

開催日時:10月3日(日) 14:00～
会 場:スタジオA
入場者数:274名(入場料3,000円他)

クラシックバレエを基礎に、世界的な舞台で早くから頭角を現し、今なお新たな表現を追求しつづけている中村恩恵(ダンサー・振付家)と首藤康之(ダンサー)による作品を2作同時上演。「時の庭」は2010年1月に初演された作品の改訂版の日本初上演。中村、首藤のほかに、ダンスカンパニーNoism出身のダンサー青木尚哉も出演。「The Well-Tempered」はJ.S.バッハのピアノ曲を背景に、優美で洗練されたバレエの技術を見ることができるとの作品を紹介した。公演終了後には、中村、首藤、青木と舞踊評論家によるポストトークを開催。地元のバレエ教室、ダンス教室の生徒や講師、その保護者を中心に遠方からも多数来場があり、地域のニーズを酌みつつ、質の高い舞台作品を紹介した企画となった。

6 白井剛+YCAMビデオダンス制作プロジェクト「Choreography filmed:5days of movement」及び新作映像発表会

プロジェクト実施期間:2010年4月～
開催日時:1月23日(日) 14:00～
会 場:スタジオC
入場者数:51名(入場料1,000円他)

白井剛(振付家・ダンサー)の代表作であるダンス作品「質量,Slide,&」(2004年初演)のコンセプトを元に、再構成し、ビデオダンス作品「質量,slide,& in frames」を制作するプロジェクト。約10ヶ月間のプロジェクトでは、YCAMの技術と環境を活かし、アーティストとともに新作ビデオダンスを制作。また、その過程をインターネットを通じて公開した。まずは5日間に渡って撮影したカメラの映像をインターネット上で中継し、その後、特設webサイトを開設。アーティスト自らが編集を行った新作ビデオダンスの発表と、全撮影素材をインターネット上で公開した。1月23日には新作映像発表会を開催。二部構成で本プロジェクトを紹介した。一部はコメンテーターを迎え、ビデオダンスの半世紀の変遷を、映像とレクチャーを通して紹介。二部では新作映像の初公開と、白井剛、北野圭介(映像理論・表象文化論)によるトークを開催。ビデオダンス制作から始まったこのプロジェクトは、同時に、このwebサイトを通してインターネットが私たちにもたらす映像文化の未来を予感させ、映像を編集すること、また視聴することの現在形について示唆を加えるものとなった。

7 梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

開催日時:2月19日(土) 19:00～、20日(日) 14:00～
会 場:スタジオA
入場者数:19日 102名、20日 87名(入場料2,800円他)

映像や音響を自らデザインし、光・音・身体を等価な要素として空間に構成する振付家・ダンサーの梅田宏明による新作ダンス公演をYCAMにて滞在制作、発表した。梅田の作品は、刺激的な光や空間と、即興的なダンスがシンクロした「ビジュアル・パフォーマンス」として日本のみならず世界各地で注目を集めている。今回YCAMでは、技術的な精度を向上し、身体情報をキーワードに、視覚・聴覚といった人間の知覚をゆさぶるダンス作品を目指し、実験を繰り返しながら創作を行った。また、同時上演として過去作「Accumulated Layout」も上演。過去の作品と最新作を通してアーティストを紹介した。なお、「Holistic Strata」はYCAMで世界初演を迎えた後、ヨーロッパを中心に上演を重ねている。

【関連】トークイベント

開催日時:19日・20日の各公演終了後
会 場:スタジオA

19日:ポストトーク
梅田宏明とゲストである八谷和彦(メディア・アーティスト)によるポストトークを開催。お互いにメディア・テクノロジーを使用し、身体と密接な関係をもった作品を発表してきたアーティスト同士、「Holistic Strata」について語り合った。
20日:技術解説プレゼンテーション(教育普及)
梅田宏明と、YCAMスタッフをはじめとした、本作の創作に関わったスタッフによる技術解説。プログラマー、システムデザイン、サウンドデザインの各スタッフが、作品中で実際に開発したシステムを舞台上で操作しながら、実験の過程も含め、今回目指した部分について分かりやすく説明を行った。

PERFORMING ARTS

[2] パフォーミングアーツ



パフォーミングアーツ

8 チェルフィッチュ新作公演「ゾウガメのソニックライフ」

開催日時: 3月13日(日) 14:00～

会場: スタジオA

入場者数: 194名 (入場料2,800円他)

2007年にYCAMでも開催した演劇公演「三月の5日間」で、岸田國士戯曲賞を受賞するなど、現代のパフォーミングアーツ・シーンに大きな影響を与える演劇作家・演出家の岡田利規率いるチェルフィッチュの最新公演を、YCAMをはじめ、公立劇場三館で共同プロデュースした。これまで、チェルフィチュの作風は、現代の若者の話し言葉やダラダラした身体性が特徴的と言われてきたが、前作から新たな展開点を迎え、削ぎ落とされた台詞と身体による表現に変化。前作の方法論を前に押し進めた最新作「ゾウガメのソニックライフ」の上演を通して、演劇の新たな可能性を提示した。

また、公演終了後には岡田利規によるポストトークを開催。参加した観客からも積極的に質問や感想が寄せられ、関心の高さが伺えた。

パフォーミングアーツ

[3] 教育普及

1 自主事業関連教育普及事業

●三上晴子「Deire of Codes | 欲望のコード」ギャラリーツアー

開催日時：4月10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、5月8日(土)、9日(日)、16日(日)、29日(土)、30日(日)、6月5日(土) [全10回]
参加者数：230名(参加無料)

三上晴子「Desire of Codes | 欲望のコード」展に関連したギャラリーツアー。
多数のカメラに捉えられた実体としての自分と、映像で映し出され記録されていく自分のイメージ。現代の監視社会とも結びつく複眼・多視点をキーワードに、参加者同士で様々な解釈を交換、共有した。

●ワークショップ「コンガラカメラ」

開催日時：5月22日(土)、23日(日) 13:00～17:00 (各日完結／全2回)
会 場：創作学習室他
参加者数：16名(参加料500円)

三上晴子「Desire of Codes | 欲望のコード」展に関連したワークショップ。
メディアが作り出すたくさんの視点と、そこから把握される世界に触れながら、情報化社会における記録や監視について考察を行った。実践と観察、ディスカッションから、目には見えない監視社会の構造と、そこで必要とされるルールについて学ぶ機会を提供。

●「リズム・ワークショップ」「トーク+ワークショップ成果発表会」

開催日時：6月9日(土) 10:00～13:40
会 場：スタジオB、ホワイエ
参加者数：18名(参加無料)

「Political Mother」の公演に関連したワークショップ、及びトークイベントを開催。
ホフェッシュカンパニーの音楽家、ヤロン・エングラー氏を講師に迎え、本公演の音楽が持つ躍動感や即興性を体感しながら、皆で演奏を体験。また成果発表を含むトークイベントでは本公演の振付家であるホフェッシュ・シェクター氏が、作品における音楽の重要性について様々なエピソードを披露。

●「CLOUD FOREST」ギャラリーツアー

開催日時：8月15日(日)、28日(土)、29日(日)、9月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、10月9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日) [全15回]
参加者数：118名(参加無料)

「CLOUD FOREST」展に関連したギャラリーツアー。
環境としてのアートというコンセプトの理解を深めるためにも、スタッフによる必要以上の解説はせず、参加者自らが作品の中で体験した感想をベースに進行した。大気中の風の流れや気温の差で刻々と移り変わる「霧の彫刻」を時を忘れて眺望する参加者が多く見られた。

●中村恩恵ダンスワークショップ

開催日時：10月2日(土) 14:00～
会 場：スタジオA
参加者数：34名(参加料1,000円)

「時の庭」／「The Well-Tempered」の公演に関連したワークショップ。
中村恩恵を講師として迎え、バレエ・ダンス経験者を対象にしたワークショップを開催。
*ダンスから発見する身体の可能性*ということをテーマに、ダンスを学ぶ幅広い世代に向けて指導を実施。



●「polar^m ポーラーエム」ギャラリーツアー

開催日時：11月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)、12月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、1月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)、23日(日)、29日(土)、30日(日) [全17回]
参加者数：75名(参加無料)

「polar^m ポーラーエム」展に関連したギャラリーツアー。
環境を「観測」することをテーマにしたインスタレーション作品を広く紹介した。
放射線検知器(ガイガーカウンター)や霧箱(クラウドチャンバー)といった、目に見えない放射線を感知する装置の説明や、量子力学の基礎知識とともに、身近になった環境という言葉を、捉え直す能動的な議論を参加者同士で行った。

●バックステージツアー

開催日時：2月5日(土)、6日(日) 14:00～
会 場：スタジオA
参加者数：5日22名、6日25名(参加無料)

2010年度の滞在制作作品である「Holistic Strata」の舞台裏を覗く参加型プログラム。
作品表現の裏側にあるシステムの体験や、アーティストへの質問を通して、作品への理解を促すとともに、滞在制作に対しての興味を刺激する内容となった。全体を通してワークショップに近い形式が取られ、市民が実際に体験をするという面に焦点が置かれた。

●技術プレゼンテーション

開催日時：2月20日(日) 「Holistic Strata」公演終了後
会 場：スタジオA
参加者数：75名(参加無料)

2010年度の滞在制作作品である「Holistic Strata」公演終了後、作品へのより深い理解を促す目的のもと、アーティストとクリエイション・チームの技術者による、作品表現を支える技術に関するプレゼンテーションを開催。梅田宏明氏から、作品の技術的なゴールに関する説明があった後、各担当技術者が独自の解決法を発見していった過程や、最終的に採択された方法について紹介を行った。

●岡田利規 演劇ワークショップ 「フツウはヘン、ヘンはフツウ～ふだんの自分自身から学ぶ～」

開催日時：3月6日(日) 14:00～19:00
会 場：スタジオA
参加者数：14名(参加料1,000円)

「ゾウガメのソニックライフ」の公演に関連したワークショップ。
岡田利規を講師に迎え、その演劇論をワークショップを通じてより具体的に学び、体験してもらうことを意図とする企画。演劇経験者と未経験者が混じり合う中、それぞれの立場から岡田利規のメソッドに関し学びの多いワークショップ内容となった。

●真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」ギャラリーツアー

開催日時：3月12日(土)、19日(土)、20日(日)、21日(月・祝)、4月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、29日(金・祝)、30日(土)、5月1日(日)、3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝) [全18回]
参加者数：215名(参加無料)

真鍋大度+石橋素新作インスタレーション「particles」展に関連したギャラリーツアー。
世界中から注目を集める気鋭のクリエイターの新作を紹介し、彼らの活動の根底にある方法論や思考プロセスに触れることができた。最先端の技術を使った意欲的な挑戦と、それが社会に与える影響を、参加者同士のディスカッションを通じて考えた。



オリジナルワークショップ

●surround gardenー響きあう音とカラダ

開催日時：8月21日(土) 14:00～17:00、22日(日) 14:00～17:50 2日間通し
会場：スタジオA
参加者数：15名(参加費500円)

教育普及担当により開発された音響ワークショップツール"walking around surround"(was)を白井剛が表現ツールとして使用することによるワークショップ。成果発表では、wasを使用したダンス作品を発表、普段知られる機会のないwasの面白さを、市民に楽しんでもらえる機会を提供。

●YCAMメディアキッチンー知的好奇心を満たす連続レクチャー

開催日時：第1回6月12日(土)、第2回10月23日(土)、第3回1月22日(土)15:30～17:00
会場：ホワイエ
参加者数：第1回 82名、第2回 44名、第3回 77名

YCAMメディア・キッチンは、「衣・食・住」等の身近なトピックと一見難解なメディア表現の新しい融合のかたちを、主に市内の女性へ向けて、体験型ミニワークショップを含むレクチャー形式として提案。年間を通して全3回(6月、10月、1月)実施、第1回目では食(中山晴奈氏/フードデザイナー)、第2回目では衣(ダニエル・ワイルド氏/アーティスト、リサーチャー)、第3回目では住(佐藤和歌子氏/ライター、編集者)をテーマにそれぞれの専門家を招いた。

●夏休みYCAM探検クルーズ

開催日時：8月13日(金)、14日(土) 14:00～
会場：スタジオA
参加者数：13日47名、14日37名

本イベント用につくられたオリジナル演劇作品を鑑賞後、その舞台裏を専門スタッフのレクチャーを通じてめぐる夏休みイベント。普段、見ることができない舞台裏のしくみや働く人を知る希少な機会となった。親子での参加が多く、照明や音響のコントロールブースで、実際に舞台を操作する場面では歓喜の声が上がっていた。



meet the artist 2010「自分のメディアを創る」

●事業概要

市民とアーティストが年間を通して創造的な活動に取り組むmeet the artistシリーズの2010年度版。「映像」を通して市民が情報を気軽に発信していくための道筋を作る活動を行なった。アーティスト 藤井光とともに活動する市民コラボレーター向けに、映像制作講座や映像研究からスタートして、映像制作ワークショップの開催、市民によるメディアセンター(映像制作とインターネットへの公開をサポートする仮設スタジオ)の運営、一般公募された映像を上映する「映像祭」の開催といった、一連の活動を通し、映像の専門家が制作した映像をただ観るだけの視聴者として存在するのではなく、自分たちが作り手側に回って「文房具のようなメディア」として、映像とつきあっていく可能性を示した。

●アーティストレクチャー

開催日時：4月24日(土) 14:00～
会場：ホワイエ
参加者数：50名(参加無料)

アーティスト藤井光が、1年間の活動を見据えて、「映像のもつ力」について行なったレクチャー。米国大統領選挙での映像広告の分析を通して、映像にはどんなことが可能なのか、または不可能なのかを示し、市民が手作りで可能な情報発信として映像を活用していくことを提案した。

●「アートふる山口」開催ワークショップ「キモチミエルカ」

開催日時：10月2日(土)、3日(日)
会場：一の坂川沿い「惣野旅館」2F
参加者数：170名(参加無料)

市民文化イベント「アートふる山口」に参加して、多くの人に映像に気軽に触れてもらうためのワークショップを実施。三脚を立ててノーカットで映像を1分間撮影するだけで、そこに映っているモノを通してメッセージが伝わることを実感してもらうワークショップを行なった。

●自分たちのメディアを創る映像祭

開催日時：3月26日(土)、27日(日) 13:00～
会場：スタジオC
入場者数：210名(入場無料)

一年間の活動の集大成として、全国から一般公募で集まった映像を上映する「映像祭」を実施。映像を観るのと同時に、映像制作や報道に携るゲストを招き、現代の映像を取り巻く状況について語り合うシンポジウムも開催した。

シンポジウム登壇者：
2011年3月26日
大野祐輝 (映像作家、ライター)
東条雅之 (フォト/ビデオジャーナリスト)
冠 那菜奈 (メディアエイター)
伊藤明己 (市民コラボレーター/メディア研究者)
藤井光 (アーティスト/meet the artist 2010監修)

27日
白石草 (非営利ネット放送局「OurPlanet TV」代表)
山野友義 (山口ケーブルビジョン㈱ 制作営業局課長)
平井多美子 (市民コラボレーター/「山口市市民活動支援センター さぼらんで」スタッフ)
藤井光 (アーティスト/meet the artist 2010監修)

アウトリーチ

●ラボ・ラティノー・プロジェクトにおけるプレゼンテーション

開催日時：11月22日(月) 8:00～ 9:00
参加者数：20名

エクアドールの首都であるキトとスペイン・マドリードの2つの都市を結ぶアートネットワークの形成を目的としたプロジェクトであるラボ・ラティノー(スペイン・マドリード)が、プログラムの一環としてYCAMにスカイプを通じたイベントへの参加を依頼。YCAMのテクノロジーを通じた新しい制作体制の在り方についてのプレゼンテーションを行った。

[4] ラボ

1 研究開発事業

YCAMでの作品制作に必要な技術力の向上、維持を目的に基礎研究と開発を行う企画。
今年度は、個人での研究活動が中心となった。その中での主なテーマとして、3Dプリンタを取り上げてのリサーチ活動を行った。今後は機器をレンタルし、次世代の製造ソリューションについての実験を実施する予定である。



2 研修生事業

世界中から1人ないしは2人を半年から1年間YCAMに研修生として呼び、共に研究、制作を行う企画。YCAMスタッフの価値観、思考の幅を広げること及び新たな人材発掘を目指すもので、今年はタイから1名受け入れを行い、共に研鑽した。また、国際交流基金JENESYSプロジェクトと連携、実施にあたってサポートいただいた。



ラボ

[5] シネマ

1 コミュニティシネマ山口

会場:スタジオC
入場者数:2,015名

上映作品:
4月 「ボー川」のひかり」「パンドラの匣」
5月 「パリ・オペラ座のすべて」
6月 「アニエスの浜辺」「5時から7時までのクレオ」「幸福」「アバンチュールはパリで」
7月 「ベルリン・フィル 最高のハーモニーを求めて」「帝国オーケストラ」「時をかける少女」
「スラヴォイ・ジジエクによる倒錯的映画ガイド」
8月 「ユキとニナ」「川」の底からこんにちは」
10月 「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」「モダン・ライフ」「あの夏の子供たち」「何も変えてはならない」
11月 「ガールフレンド・エクスベリエンス」「Bubble／バブル」「冬の小鳥」「ボヴァリー夫人」「エルミタージュ幻想」
12月 「ケンタとジュンとカヨちゃんの国」「バード★シット」「ハロルドとモード」
2月 「世にも怪奇な物語」「ヘヴンズストーリー」
3月 「シルビアのいる街で」「その街のこども」



シネマ

2 Select CINE TECTONICS

映画を芸術作品として捉え、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史及びメディア史的視点から見て、意義のある映画作品を紹介するシリーズ。山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映する。

●Select CINE TECTONICS=10 「アピチャップン・ウィーラセタクン監督作品上映」

開催日時:6月11日(金)～13日(日)
入場者数:62名

上映作品:「真昼の不思議な物体」「トロピカル・マラディ」
現代美術において映像インスタレーションを発表するなど、国際的アートシーンからも高く評価されるアピチャップン・ウィーラセタクンの作品を上映。

●Select CINE TECTONICS=11 ジャン＝リュック・ゴダール「映画史」

開催日時:6月26日(金)～8月1日(日)
入場者数:235名

ジャン＝リュック・ゴダール監督が長期間にわたって制作した全8章268分に渡る「映画史」をスタジオBにて大画面、最良の音響環境によって週末のみ約1ヶ月間にわたって上映した。

●Select CINE TECTONICS=12「タル・ベーラ」

開催日時:7月16日(金)～18日(日)
入場者数:76名

上映作品:「ヴェルクマイスター・ハーモニー」「倫敦から来た男」
独自のモノクローム映像によって、極限の美を追求する、ハンガリー現代映画の鬼才タル・ベーラの新作を含む2作を上映。

●Select CINE TECTONICS=13「伊藤大輔／青山真治」

開催日時:12月24日(金)～26日(日)
入場者数:72名

上映作品:「忠治旅日記」「斬人斬馬剣」「Le Petit Chaperon Rouge」
時代劇の祖とも言われる伊藤大輔の作品と現代日本映画界を代表する青山真治監督の作品を併映。物語から発生する主人公を巡って、80年を隔てた映画の軌跡を交照。



3 特集

●村川透監督特集

開催日時:5月1日(土)～23日(日)
入場者数:443名

上映作品:「わが命のうた艶歌」「白昼の死角」「華麗なる追跡 THE CHASER」「蘇る金狼」「白い指の戯れ」「大追跡 横浜デンビラ・ブリ」「あぶない刑事リターンズ」「最も危険な遊戯」「薔薇の標的」「殺人遊戯」「二人の女」「獣たちの熱い眠り」「行き止まりの挽歌 ブレイクアウト」「処刑遊戯」「野獣死すべし」
アクション映画で常に観客を魅了し続けていく映画作家・村川透が監督した映画からTVまで一挙上映。ハードボイルドの名手と言われるその足跡を辿った特集上映。
本特集に併せたトーク・イベントも開催。

○村川透監督特集トーク・イベント

開催日時:5月22日(土)
ゲスト:丸山昇一(脚本家) 司会:堀家敬嗣(山口大学教育学部准教授)

「野獣死すべし」「処刑遊戯」など村川透監督作品の脚本を手がけた脚本家・丸山昇一氏をゲストにむかえたトーク・イベント。

●ジャック・ロジェ監督特集

開催日時:7月2日(金)～4日(日)
入場者数:106名

上映作品:「アデュー・フィリピーヌ」「オルエットの方へ」「メーヌ・オセアン」「ブルー・ジーンズ」「パ・パ・ラッツィ」「バドルー・ゴダール」
ヌーベル・ヴァークの重要な作家の一人でありながら、これまで日本で紹介される機会の少なかったジャック・ロジェ監督の短編を含む6作品を上映。

●文化庁優秀映画鑑賞推進事業

開催日時:9月22日(水)～26日(日)
入場者数:161名

上映作品:「けんかえれじい」「めぐりあい」「八月の濡れた砂」「約束」
公立の文化施設と文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンターが連携・協力し、毎年実施している事業。今回は4人の名匠が描いた1966年～72年の青春映画を上映。

●シネマテークプロジェクト第三弾

開催日時:1月6日(木)～10日(月)、1月14日(金)～16日(日)
入場者数:321名

上映作品:「アニキ・ボボ」「春の劇」「過去と現在 昔の恋、今の恋」「トラス・オス・モンテス」「骨」「黄色い家の記憶」「ラスト・ダイビング」「神の結婚」「カニバイシュ」「神曲」「トランス」「私たちの好きな八月」
映画上映のための専門施設を持ち、映画史的、批評的なプログラムによる上映活動を目的とする文化施設が連携し、これまで上映される機会のなかった映画史的重要な作品を上映・巡回するプロジェクト。第3回目を迎える今回は日本ポルトガル修好通商条約150周年を記念し、100歳を超える今も現役で映画を作り続ける世界的巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ、公開が熟望されていたジョアン＝セザール・モンテイロ、新進気鋭の作家の作品など一挙12作品を上映。

●マノエル・ド・オリヴェイラ監督特集

開催日時:1月28日(金)～30日(日)、2月4日(金)～6日(日)
入場者数:167名

上映作品:「わが幼少時代のポルト」「家宝」「永遠の語らい」「夜顔」「コロンブス 永遠の海」「ブロード少女は過激に美しく」
ポルトガル映画祭に併せた関連上映。巨匠マノエル・ド・オリヴェイラの近年の作品を上映。オリヴェイラの断片を俯瞰するレトロスペクティブ。



真夏の夜の星空上映会

開催日時：8月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)
会 場：中央公園、スタジオC
入場者数：850名

上映作品：「チョコレート・アンダーグラウンド」「ブルー・ハワイ」「ロンゲスト・ヤード」「のんちゃんのリ弁」
毎年恒例になった夏のイベント。YCAMの壁にスクリーンをはり、中央公園の芝生にゆったりと座って映画を観るイベント。今回は4回にわたって様々なジャンルの作品を上映、多くの観客を集めた。



全国コミュニティシネマ会議 in 山口

開催日時：2010年9月10日(金)、11日(土)
参加者：約200名

全国の映画事業に関わる人々が一同に集結し、情報交換、研究／討議の場として1996年より開催されている「全国コミュニティシネマ会議」をYCAMで開催。
テーマは「『メディア芸術センター』としてのコミュニティシネマの可能性」。
プレ・ワークショップ、基調報告、ディスカッション、プレゼンテーション、講義、上映などが行われた。



*全国コミュニティシネマ会議プレミア上映

開催日時：9月11日(土)
入場者数：125名

上映作品：「海炭市叙景」「トラス・オス・モンテス」
ミニシアター系の映画館で連携した組織「シネマシンジケート」推薦の「海炭市叙景」とシネマテークプロジェクト第3段「ポルトガル映画祭」の上映プログラムの一つ「トラス・オス・モンテス」をプレミアム上映。
※「海炭市叙景」の製作幹事「シネマアイリス」のプレゼンテーションも併せて行われた。

[6] 主な貸館事業

●インテリアコーディネーター協会総会・講演会

(主催) 山口県インテリアコーディネーター協会
開催日時：4月21日(水)

●照明講習会

(主催) 山口県高等学校演劇協議会
開催日時：6月12日(土)

●デザイン維新2011 C・C・X・Y

(主催) 社団法人山口県デザイン協会
開催日時：平成23年2月27日(日)

●シネ☆バラ2011

(主催) 山口大学映画倶楽部
開催日時：平成23年3月17日(木)

[7] 施設利用状況

1 入館者数
月別内訳(名)

4月	54,539	10月	65,580
5月	66,298	11月	55,454
6月	58,349	12月	48,668
7月	67,849	1月	51,771
8月	76,049	2月	56,859
9月	64,160	3月	53,841
合計		719,417	

2 見学・視察者数
月別内訳(名)

4月	194	10月	133
5月	40	11月	181
6月	72	12月	163
7月	180	1月	135
8月	19	2月	0
9月	167	3月	39
合計		1,323	

3 施設使用状況

施設	開館日数	使用日数	使用率(%)
スタジオA	307	228	74.3
スタジオB	307	205	66.8
スタジオC	307	192	62.5
創作・学習室	307	144	46.9
多目的室	307	128	41.7

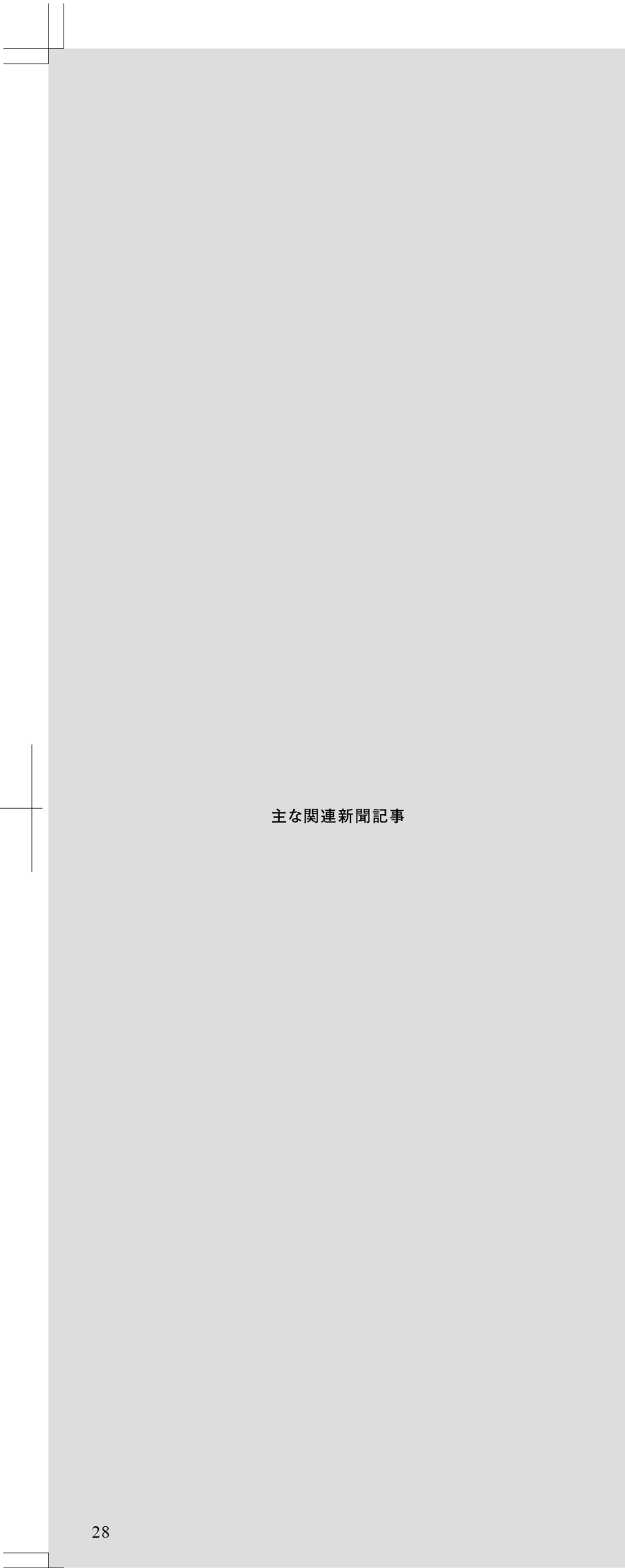
[8] その他特記事項

1 アーカイブ事業

事業活動成果の冊子制作やプロジェクト毎の映像編集、C D制作などを実施。また、Webや館内閲覧コーナーを充実させ、過去のイベント内容の情報提供に努めた。

2 実習生受け入れ状況

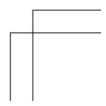
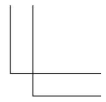
●博物館実習(3名)
期間：7月26日～8月8日、8月18日～23日、11月1日～14日
内容：教育普及ワークショップ運営、アート展示設営

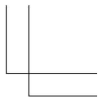
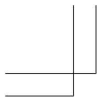


主な関連新聞記事

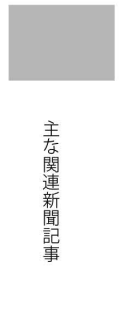


主な関連新聞記事

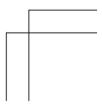


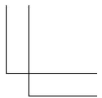
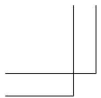


主な関連新聞記事



主な関連新聞記事

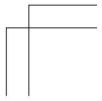


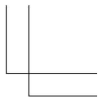
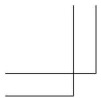


主な関連新聞記事



主な関連新聞記事

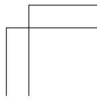


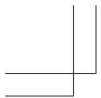


主な関連新聞記事



主な関連新聞記事





主な関連新聞記事



〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果



YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

(平成23年度も含む)

[アート部門]

渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」

渋谷慶一郎と複雑系科学研究者の池上高志によるコラボレーション作品。彼らが提唱する複雑系科学を応用した新しい音楽構成理論「第三項音楽」に基づいて緻密に作り上げられたコンピュータサウンドによる立体音響インスタレーションがフランスを巡回。
2006年8月9日-10月9日 YCAM
2011年3月10日-20日 Festival EXIT (クレティユ／フランス)
2011年3月24日-4月3日 Festival VIA (モブージュ／フランス)
2011年4月13日-8月14日 Gare Saint-Sauveur (リール／フランス)

坂本龍一+高谷史郎「LIFE- fluid, invisible, inaudible・・・」

世界的に活躍する音楽家の坂本龍一とアートグループ「ダムタイプ」の中心メンバーである高谷史郎がサウンドと映像による新たな表現の試みをコラボレーション作品として発表したオーディオビジュアルインスタレーション。
2007年3月10日-5月28日 YCAM
2011年4月2日-5月29日「Bethune 2011」(ペテュヌ／フランス)

newClear+アレッシオ・シルヴェストリン「skinslides」

ダンサーを永久保存するインターフェイスとして考案されたインタラクティブインスタレーション。サウンドを大友良英が手掛け、YCAM IntelLabが技術協力を行った。
2009年4月25日-8月31日 YCAM
2011年7月20日-9月20日「NJP Summer festival "21 Rooms"」(ナム・ジュン・バイク・アートセンター／龍仁／韓国)

三上晴子+市川創太「gravicellsー重力と抵抗」改訂版

2004年5月のYCAMでの滞在制作・初公開以来、東京、ベルリン、トリノをはじめ世界8カ国／12カ所を巡回し、メディアアートの代表的な作品のひとつとして、高い評価を得ている「gravicellsー重力と抵抗」をアップデートし、作品空間をよりダイナミックに使った新バージョンとして2010年に当館にて公開。その後、中国を巡回し再展示された。
2010年1月24日-5月9日 YCAM
2011年7月26日-8月21日「Translife - Media Art China 2011」(中国美術館／北京／中国)

三上晴子「Desire of Codes | 欲望のコード」

3作品より構成される上記展覧会。「書く壁面」「巡視する複眼スクリーン」がドイツ・ドルトムントで、「多視点を持った触覚的サーチャーム」がオーストリア・リンツで再展示された。
2010年3月20日-2010年6月6日 YCAM
■「書く壁面」「巡視する複眼スクリーン」
2010年7月31日-9月5日「TRUST」(Dortmund U/ドルトムント/ドイツ)
■「多視点を持った触覚的サーチャーム」
2010年8月5日-9月20日「SPACE INVENTIONS」(Kunstlerhaus/ウィーン/オーストリア)
2011年10月22日-12月18日 ICC (展覧会タイトル未定／初台／東京)

semitra 「tFont/fTime」

2009年9月19日-2010年1月13日 YCAM
2010年10月22日-11月18日 「セミトラ展 ウェブから生まれるデザイン」(クリエイションギャラリーG8/銀座/東京)

「大友良英 / ENSEMBLES/without records」[改訂新作]

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品の内、「without records」[改訂新作]について水戸芸術館への巡回を予定している。
2008年7月5日 - 10月13日 YCAM
2010年11月30日-2011年1月16日 大友良英「アンサンブルズ2010 - 共振」(水戸芸術館／水戸／茨城)

doubleNegatives Architecture「Corpora in Si(gh)te」

2007年10月13日 - 2008年1月13日 YCAM
2010年3月17日-5月11日「Dynamic (in)position. Ars Electronica in Mexico」(メキシコシティ/メキシコ)

[パフォーミングアーツ部門]

白井 剛×川口 隆夫×藤本 隆行「true/本当のこと」

ディレクション・照明：藤本隆行 (Refined Colors / dumb type)
振付・出演：白井剛 (Abst/発条ト)
振付・テキスト・出演：川口隆夫 (dumb type) 他
アーティスト、技術者10人がYCAMに結集し、YCAM InterLabと共同開発した作品。

2007年9月1日 YCAM
2010年6月5日 Macao Cultural Center-Small Auditorium (マカオ／中国)
2010年6月18日-20日 Hong Kong Cultural Center -Studio Theatre (香港／中国)
2010年9月8日-9日「Trans ART 2010」EX-Alumix di Bolzano (ボルツァーノ／イタリア)
2011年1月27日-29日 Usine C (モントリオール／カナダ)
2011年2月3日-5日「Mois-Multi」Coopérative Méduse (ケベック／カナダ)
2011年3月18日-21日「アイホールダンスコレクションvol.64」アイホール (伊丹／日本)

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

2011年2月19日-20日 YCAM
2011年3月10日-12日 EXIT-Festival (クレティユ／フランス)
2011年3月31日-4月1日 VIA Festival (モブージュ／フランス)
2011年6月9日 ARTROCK Festival (サン・ブリュエ／フランス)
2011年7月9日-10日 Julidans (アムステルダム／オランダ)
2011年8月25日-27日 Noorderzon Performing Arts Festival (フローニンゲン／オランダ)

白井剛+YCAMビデオダンス制作プロジェクト 「Choreography filmed:5days of movement」

2011年1月23日 YCAM
2011年9月19日 KYOTO EXPERIMENT 2011 プレイベント・上映会+アーティストトーク
会場：京都芸術センター (京都市／日本)

[教育普及部門]

ケータイ・スパイ・大作戦

2005年度に開発したオリジナルワークショップを、招聘により実施した。
2009年12月12日-13日 (丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／香川県)

「清華大学アート&サイエンスメディアラボ [TASML] :メディアアート／デザインラボ シンポジウム」招聘

世界のメディアラボ関係者が一堂に会し、中国のアート＆サイエンスの関係機関とともに、アートとテクノロジーが協働する最先端のクリエイションの実践やリサーチ、批評的視点を交えたプレゼンテーションやディスカッションを行うシンポジウム。17名のプレゼンターが招聘され、YCAM InterLabもプレゼンテーションを行った。プレゼンターやゲストを交えたパネルディスカッションでは、「メディアラボ」のあり方や可能性、有効性、方向性について様々な議論が飛び交った。
2010年6月11日-12日(清華大学／北京／中国)

モントリオールデジタルアート見本市 [IMDA] 招聘

国際的なデジタルアート界のネットワーク構築、活動紹介プレゼンテーション、カナダのアーティストを海外関係者へ紹介することを目的に、1997年から開催されている見本市へ、公立の文化施設としては唯一YCAMが招聘された。カナダや北米をはじめ、EU、アジア、ラテンアメリカの文化施設(公立/私立)や国際的なデジタルアートフェスティバルのディレクター、キュレーター、アーティスト、ジャーナリストなど関係者29名が招聘され、YCAMはその活動についてのプレゼンテーションを行った。
2011年5月5-6日(モントリオール／カナダ)

■受賞歴

真鍋大度+石橋素「particles」

「PRIXアルスエレクトロニカ2011」(リンツ、オーストリア)／サイバーアーツ国際コンペティション／インタラクティブアート部門入賞[準グランプリ]

semitra 「tFont/fTime」

東京TDC賞 2010(The Tokyo Type Directors Club Annual Awards 2010) RGB賞受賞

平成22年度
山口情報芸術センター事業報告書



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
<http://www.ycam.jp>

[発行] 平成23年9月

財団
法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
<http://www.ycfcp.or.jp/>